

Oak Village. 通信

月刊オークヴィレッジ通信 No.376 2010.4.1 <http://www.oakv.co.jp>



写真提供：高山市

春を告げる高山祭

藤井啓太文

青空の下、優雅に舞うからくり人形。これは、春の高山祭「山王祭」に登場する、三番叟さんばそうという屋台で、今から約260年前に創建されました。その後、1837年に現在の形に改造されてから170年もの長い間、変わらぬ姿で人々の目を楽しませてくれます。

高山祭の目玉とも言える屋台。春の山王祭では12台、秋の「八幡祭」はちまんまつりでは11台の屋台が登場します。その洗練された構造美、緻密な彫刻、飾り金具、演じられるからくりの妙技などは、まさに飛騨の匠の技が凝縮した芸術品です。

しかし、そんな豪華絢爛な屋台も長い年月を経ることによって、ねじれや狂い、飾り物のくすみが出てしまいます。そこで、飛騨の匠たちは、屋台を昔と変わらぬ姿にするためにその技を余すところなく発揮し、修繕するのです。

冒頭の三番叟では今年、約40年ぶりとなる大修理が行われました。

(次ページに続く)

※高山祭は、春の「山王祭」と秋の「八幡祭」の総称です。